

※本レジメン集は外来化学療法加算の算定を行っているレジメンのみを掲載。
※当加算を取れない治療法や削除となったレジメン等のため、登録記号・番号に欠番がある場合あり。

- O悪性神経膠腫1

削除

TMZ単剤療法（経口 初発時）
- O悪性神経膠腫2

削除

TMZ単剤療法（経口 再発時）
- O悪性神経膠腫3

削除

放射線併用Bev+TMZ療法→O8、O9に変更

O悪性神経膠腫4

対象疾患	悪性神経腫	レジメン名	Bev単剤療法(2週間隔法)(再発時)		
1コースの期間(休薬期間含む)		14日			
総コース数	制限なし				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ベバシズマブ(Bev)	10 mg/kg	点滴静注	90分	day 1
	生食100 mL	1 P		※備考欄参照	
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類	Bev:非炎症性				
催吐性リスク分類	Bev:最小度				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	※Bevは、初回は90分かけて投与すること。初回時の忍容性が確認出来れば、2回目は60分で投与出来、さらに2回目も忍容性が確認出来れば、3回目以降30分で投与出来る。				

O悪性神経膠腫5

対象疾患	悪性神経膠腫	レジメン名	放射線併用TMZ単剤療法(初発時、放射線併用期)		
1コースの期間(休薬期間含む)		70日※備考欄参照			
総コース数	1コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~42 ※備考欄参照
2	テモゾロミド(TMZ)	75 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1~42 ※備考欄参照
	注射用水100 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1~42 ※備考欄参照
血管外漏出 リスク分類	TMZ:炎症性				
催吐性リスク分類	TMZ:中等度 ※TMZは中等度であるが、連日投与のため制吐療法については確立した方法はない。 適宜、5-HT ₃ 受容体拮抗薬、D ₂ 受容体拮抗薬等を用いる(メーカー回答より)				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	※TMZは、1V当たり41 mLの注射用水で溶解すること(TMZ濃度=2.5 mg/mLとなる)。 ※放射線照射の中断により放射線治療期間が延長した場合、継続基準(好中球数1,500 /mm ³ 以上、血小板数100,000 /mm ³ 以上、脱毛、悪心嘔吐を除く非血液学的副作用(NCI-CTC Grade)がGrade 1以下)を満たしたときに限り、42日間連日投与を最長49日まで延長することができる。 ※放射線療法は線量60 Gy/30 fr/6 wで施行。但し、放射線の初回照射日はTMZ投与開始日と同日とし、最終照射もTMZの最終投与日と同日となるようにする(メーカー資料より)。				

O悪性神経膠腫6

対象疾患	悪性神経腫	レジメン名	放射線併用TMZ単剤療法(初発時維持療法期)		
1コースの期間(休薬期間含む)		28日			
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5
2	テモゾロミド(TMZ)	150 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1~5
	注射用水100 mL	※備考欄参照			
	生食250 mL	1 P			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1~5
血管外漏出 リスク分類	TMZ:炎症性				
催吐性リスク分類	TMZ:中等度 ※TMZは中等度であるが、連日投与のため制吐療法については確立した方法はない。 適宜、5-HT ₃ 受容体拮抗薬、D ₂ 受容体拮抗薬等を用いる(メーカー回答より)				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	※TMZは、1V当たり41 mLの注射用水で溶解すること(TMZ濃度=2.5 mg/mLとなる)。				

O悪性神経膠腫7

対象疾患	悪性神経膠腫	レジメン名	Bev単剤療法(3週間隔法)(初発時、単剤療法期)		
1コースの期間(休薬期間含む)		21日			
総コース数		制限なし			
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1
2	ベバシズマブ(Bev)	15 mg/kg	点滴静注	90分 ※備考欄参照	day 1
	生食100 mL	1 P			
3	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1
血管外漏出 リスク分類		Bev:非炎症性			
催吐性リスク分類		Bev:最小度			
インラインフィルターの要不要		不要			
備考欄		※Bevは、初回は90分かけて投与すること。初回時の忍容性が確認出来れば、2回目は60分で投与出来、さらに2回目も忍容性が確認出来れば、3回目以降30分で投与出来る。			

O悪性神経膠腫8

対象疾患	悪性神経膠腫	レジメン名	放射線併用Bev+TMZ療法(初発時、放射線併用期)		
1コースの期間(休薬期間含む)		70日※備考欄参照			
総コース数	1コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
1	テモゾロミド(TMZ)	75 mg/m ²	経口		day 1~42 ※備考欄参照
2	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、15、29、42 ※備考欄参照
3	ベバシズマブ(Bev)	10 mg/kg	点滴静注	90分	day 1、15、29、42 ※備考欄参照
	生食100 mL	1 P		※備考欄参照	
4	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15、29、42 ※備考欄参照
血管外漏出 リスク分類	Bev:非炎症性				
催吐性リスク分類	Bev:最小度 TMZ:中等度 ※TMZは中等度であるが、連日投与のため制吐療法については確立した方法はない。 適宜、5-HT ₃ 受容体拮抗薬、D ₂ 受容体拮抗薬等を用いる(メーカー回答より)				
インラインフィルターの 要不要	不要				
備考欄	※TMZは分1投与とし、空腹時投与が望ましいとされる(食事により吸収阻害される)。 ※放射線照射の中断により放射線治療期間が延長した場合、継続基準(好中球数1,500 /mm ³ 以上、血小板数100,000 /mm ³ 以上、脱毛、悪心嘔吐を除く非血液学的副作用(NCI-CTC Grade)がGrade 1以下)を満たしたときに限り、42日間連日投与を最長49日まで延長することができる。 ※Bevは、初回は90分かけて投与すること。初回時の忍容性が確認出来れば、2回目は60分で投与出来、さらに2回目も忍容性が確認出来れば、3回目以降30分で投与出来る。 ※放射線療法は線量60 Gy/30 fr/6 wで施行。但し、放射線の初回照射日はBev及びTMZ投与開始日と同日とし、最終照射もBev及びTMZの最終投与日と同日となるようにする(メーカー資料より)。この規程によりBevの本レジメンでの最終投与はday 43ではなくday 42となる。				

O悪性神経膠腫9

対象疾患	悪性神経膠腫	レジメン名	放射線併用Bev+TMZ療法(初発時、維持療法期)		
1コースの期間(休薬期間含む)		28日			
総コース数	6コース				
Rp.	薬剤名	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
1	テモゾロミド(TMZ)	150 mg/m ² ※備考欄参照	経口		day 1~5
2	生食100 mL(ルートキープ用)	1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1、15
3	ベバシズマブ(Bev)	10 mg/kg	点滴静注	90分	day 1、15
	生食100 mL	1 P		※備考欄参照	
4	生食50 mL(フラッシュ用)	1 P	点滴静注	全開	day 1、15
血管外漏出 リスク分類		Bev:非炎症性			
催吐性リスク分類		Bev:最小度 TMZ:中等度 ※TMZは中等度であるが、連日投与のため制吐療法については確立した方法はない。 適宜、5-HT ₃ 受容体拮抗薬、D ₂ 受容体拮抗薬等を用いる(メーカー回答より)			
インラインフィルターの 要不要		不要			
備考欄		※TMZは分1投与とし、空腹時投与が望ましいとされる(食事により吸収阻害される)。 ※2コース目以降TMZは200 mg/m ² へ増量することができる。 ※Bevは、初回は90分かけて投与すること。初回時の忍容性が確認出来れば、2回目は60分で投与出来、さらに2回目も忍容性が確認出来れば、3回目以降30分で投与出来る。			

O悪性神経膠腫10

対象疾患		悪性神経膠腫		レジメン名		TMZ単剤療法(再発時)	
1コースの期間(休薬期間含む)				28日			
総コース数		制限なし					
Rp.	薬剤名		1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
1	生食100 mL(ルートキープ用)		1 P	点滴静注	ゆっくり	day 1~5	
2	テモゾロミド(TMZ)		150 mg/m ²	点滴静注	90分	day 1~5	
	注射用水100 mL		※備考欄参照				
	生食250 mL		1 P				
3	生食50 mL(フラッシュ用)		1 P	点滴静注	全開	day 1~5	
血管外漏出 リスク分類		TMZ:炎症性					
催吐性リスク分類		TMZ:中等度 ※TMZは中等度であるが、連日投与のため制吐療法については確立した方法はない。 適宜、5-HT ₃ 受容体拮抗薬、D ₂ 受容体拮抗薬等を用いる(メーカー回答より)					
インラインフィルターの要不要		不要					
備考欄		※TMZは、1V当たり41 mLの注射用水で溶解すること(TMZ濃度=2.5 mg/mLとなる)。					